

ごみの分別次第でごみの焼却費用が…
年間で

約**2,000**万円節減できます。
この機会に、ごみの分別を徹底しましょう!!

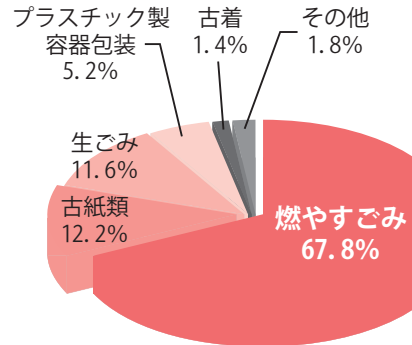
ごみの分別で
不明な点は何でも
ご相談ください



ごみ減量
キャラクター
「減ちゃん」

▼問い合わせ先 生活環境課 ごみ減量推進係

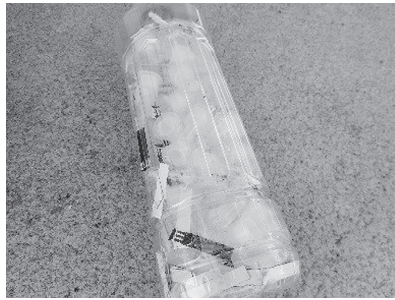
集積所に排出されたごみ袋の内容物を組成調査しました。
燃やすごみの中に、32.2%もの資源物が含まれていました。
中でも古紙類が12.2%、生ごみが11.6%と高い割合を示しています。
仮に古紙類をすべて分別し資源物として売却した場合、焼却費用等の経費で年間約2,000万円もの節減効果が見込まれます。食べ残しを無くすとともに、分別もきちんと行いましょう。



燃やすごみとして出された内容物の割合



手つかずの状態での燃やすごみに混入していた生ごみ



ペットボトルの容器に入れて出された在宅医療廃棄物

また、在宅医療廃棄物（インシュリンの注射針）やスプレー缶などのごみも含まれていました。異物の混入は、作業員の怪我や収集車の火災など、重大な事故に繋がる危険もあるため、適正な排出をお願いします。

（在宅医療廃棄物はおかかりつけの医療機関へ、スプレー缶は中身を出し切り缶のコンテナへ出してください。）

衛生自治会・ごみ減量アドバイザーで

視察研修に行きました



衛生自治会会長 兼
ごみ減量アドバイザー
鎌倉 恒文 氏

小諸市では、ごみの分別や減量に携わる「衛生自治会」と「ごみ減量アドバイザー」の二つの組織があり、日頃から地域の集積所の管理やごみ減量の啓発を行っています。

11月22日、衛生自治会の正副理事とごみ減量アドバイザーが合同で、ごみ減量の先駆けである駒ヶ根市へ視察研修に行ってきました。市の担当者から減量に対する取組みについて説明を受けた後、市のリサイクルステーションなどを実際に見学しました。

駒ヶ根市は、県内19市中、家庭から出る一人一日あたりのごみの量が一番少ない市です。説明を聞いた中で感じた小諸市との大きな違いは、ごみ袋の購入チケットがある点で

す。チケットは年度末に市から各家庭に送られ、これが無いとごみ袋を購入できないシステムで、排出の抑制につながっていると感じました。

共通して言えることは、どの市もごみ減量を重要課題として取り組む姿勢です。小諸市は他市より分別数が多いと感じるかもしれませんが、駒ヶ根市も同程度でした。今後も今ままでおり分別・減量に取り組んでいけば、小諸市のごみもさらに減らせると思います。引き続き衛生自治会とごみ減量アドバイザーが協働して家庭でも出来る取組みを考え、市民の方にも紹介していく予定です。



駒ヶ根市の担当から説明を聞く様子